

ニューフェイス 2014

この春、図書館のスタッフに加わった新メンバーの自己紹介です。どうぞよろしくお祈りします。

4月1日から図書館に勤務している相良陽介です。

この3月末までは学生支援課でキャリア支援や芸術祭の担当をしておりました。実は図書館に勤務するようになり、気づいたことがあります。学生支援課にいたことで、かなり多くのくにたちの学生の皆さんや先生方と、顔見知りになることができておりました。あまりに図書館員として未熟な私を、図書館のカウンター越しに見かけて声をかけていただいたり、たくさんのお力と与えていただき感謝しております。

社会人としての私は、金融機関に10年間、本学に10年間、関わってきました。本学との関わりは2004年4月に経理課員として勤務以降です。

図書館は経理課や学生支援課のある本部棟から離れた場所にあるのですが、隙間を見つけては通いつづけた場所です。今、思い返してみると、求めている本が決まっていななど答えがなくても(むしろ答えが無いときにこそ)足を運びました。何かヒントを掴めたり、アイデアが浮かんだり、自分の求めていたことが整理されてきたり、何もしないことがいいことだったり。図書館員の皆様のおかげで気が付いたら前に進むために自分にとって必須の場所でした。

図書館にきてから、「オペラの授業の参考に」「混声合唱をやるのに、女声の楽譜では駄目だね」などと、学生支援課の時から知っている同じ学生でも、学生支援課の時とは違う一面として「学業への真剣なまなざし」に触れることができて感動を覚えております。くにたちの学びをより充実させようと工夫している学生さんに、少しでも役にたてるように頑張りますので、どうぞよろしくお祈りいたします。

♪ 相良 陽介(さがら ようすけ) ♪

はじめまして。4月から図書館に勤務することになりました、野崎詩織です。私は「くにたち」の音楽学学科を卒業後、修士課程を修了、一般企業等での勤務を経て、3月までは音楽学研究室にて勤務をしていました。学生時代は図書館に入り浸り、授業以外のほとんどの時間を過ごしていたようなものでした。図書館に配属が決まった時には、驚きとともにうれしさでいっぱいになりました。

私は学生時代、1950年代から1960年代の日本の家庭におけるレコードの消費とオーディオ機器について研究していました。主に音楽雑誌のレコード評等を調査していたのですが、同様にアメリカの音楽雑誌の調査も必要になりました。しかし、どのような雑誌が参考になるのか、上手く資料にたどり着けません。

そこで、顔なじみの館員の方に「1950年代に発行されていたアメリカの音楽雑誌で、レコード評とオーディオ機器のことが書いてあるものはありませんか」と尋ねました。漠然とした質問に、うーん…と唸ったのち書庫へ。数分後、バックナンバーを抱えた館員の方が戻っていらっしゃいました。渡された雑誌は*High-Fidelity*という雑誌でした(請求記号:P0322)。この雑誌との出会いは、まさに「運命の出会い」!この雑誌のおかげで調査が進み、無事に修士論文を書くことができました。

先日、書庫で久しぶりにこの雑誌を見ました。懐かしさと同時に、この図書館で働くという責任感もわいてきました。

とはいえ、実際の業務では分からないことばかりで、日々オロオロとしています。図書館員と名乗るにはあまりに未熟ですが、一日でも早くみなさんのお役に立てるよう頑張っていきますので、お気軽に声を掛けてください。よろしくお祈りします。

♪ 野崎 詩織(のざきしおり) ♪

嘱託職員として、新人が一人配属されました。